

中山商事(株)

紙加工業の中山商事(福井市)は6月、福井県のブランドである恐竜をデザインした紙製将棋を商品化した。新しい知育玩具として人気を集め、発送まで2〜3週間かかる人気だ。企画した石内奈々絵さんは将棋の元女流アマ名人の経歴を持つ。

紙製の恐竜将棋を考案

中山商事 石内奈々絵さん

立命館大時代、学生女流 育教材開発部に異動し、名人戦で4連覇した。20品開発の担当になった。

03年には女流アマ名人戦 すぐ浮かんだのは、やはり優勝し、NHK将棋講座 将棋だった。40枚の将棋に聞き手として抜てきされ の駒を再生紙で作り、8種 た。プロ棋士の養成機関で 類の恐竜のイラストと組み ある奨励会に所属したこと 合わせた。わずか2カ月で もあり、全国区の知名度を 福井商工会議所主催の新商 品発表会に間に合わせた。

女流プロの道は「将棋だ 遊び方は将棋と同じだ。 けで生きていくのは不安」 恐竜の駒を動かす、王様と 断念した。地元の福井に あたる駒を詰めれば勝ち 戻り、10年2月に中山商事 だ。5歳から小学校高学年 に入社した。今年4月に知 までを対象にしている。「積



元アマ名人の経歴生かす

み木崩し」「迷路」など多 彩な遊び方ができる。価格 は2000円。保育園など に向け、遊び方を教える出 張講座も手掛ける。

自身、幼い頃から福井市 内の将棋道場に通った。「集 中力や想像力が身に付いた のは将棋のおかげ。恐竜将 棋で子どもの脳を鍛えられ たらうれしい。福井のPR にもなるし」と笑顔を見せ る。指し将棋はしばらく休 んで、恐竜将棋の普及に専 念する。

5歳の娘を育てる。昨年 11月、福井市のビジネスア ンコンテストで、中小企 業が連携して運営する託児 所構想を披露し、入選した。 「多世代同居が当たり前の 福井でも、親に頼れない若 い親はたくさんいる」とい う指摘が評価された。

駒を触りながら思うの は、紙のぬくもりだ。「デ ジタル世代の子どもたちに アナログ的な温かさを伝え たい」と言う。「プラスチックと違って踏んでも壊れ ないんですよ」と安全性を 強調することも忘れない。

福井市出身、28歳

ほくりく ism